

臨床放射線

編集委員

今井 裕
後閑 武彦
栗原 泰之
橋本 順
森 壘
中村 和正

編集協力委員

畠中 正光
小川 恭弘
松永 尚文
森 宣
村田喜代史
淡河恵津世
西山 佳宏

編集後記

▶この原稿を書いている5月末には近畿圏に続いて、首都圏および北海道の緊急事態宣言が解除されました。このまま、緊急事態宣言解除の状況が続くことを祈るばかりです。新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの学会大会が影響を受けています。放射線治療関係では、本年2月29日に福岡で開催される予定であった第33回高精度放射線外部照射部会学会大会が、開催直前にWeb開催に変更せざるを得なくなり、5月8日から5月18日までWeb閲覧にて開催されました。準備期間も十分ではない中、当番世話人の塩山善之先生のご努力で大変素晴らしい学会大会となり、参加者の多くは、Web開催の持つ多くの利点に気づかされたことと思います。今後は、この利点を取り入れた新しい学会大会の試みがなされていくかもしれません。ちょうど、JRC2020がWebにて開催されています。関係者の皆様のご苦労は大変なものと思いますが、まったく新しい形式の、実り多い学会になっていることと思います。

▶さて、本号の特集は、骨転移がトピックです。エビデンスに基づいた治療から難治性がん性疼痛への対応まで、広く学ぶことができる特集となっています。現在、骨転移に対する放射線治療を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。従来は、骨転移が認められた時点で根治的放射線治療の適応はないと考えられていました。しかし、近年、転移数が小数個に限られる場合には、根治的目的で放射線治療、特に定位放射線治療を加えることにより、生命予後が改善する可能性が示されるようになってきました。2020年度の診療報酬改定では、「直径5センチメートル以下の転移性脊椎腫瘍」、「5個以内のオリゴ転移」等が、体幹部定位放射線治療の適応として認められることとなりました。この診療報酬改定により、精度の高い照射技術に見合った保険点数を請求できるようになり、我が国での転移巣に対する放射線治療の状況は劇的に変化していくかもしれません。

▶末筆ながら、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を願いますとともに、その後に訪れる新しい時代に対応するように、我々もまた変わっていかねばならないと思っています。

中村和正

「臨床放射線」第65巻第6号

2020年6月10日発行（毎月10日発行）

定価（本体2,600円＋税）

年間購読料金 定価（本体39,700円＋税）

[年間13冊（臨時増刊号を含む）の誌代]

年間予約購読者に限り送料無料

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

TEL 03 (3811) 7165 編集部直通

TEL 03 (3811) 7184 営業部直通

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社

広告申込先 福田商店 TEL 06 (6941) 5600

FAX 06 (6941) 5605

本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。